

馬瀬

ませ

狂言

の 伊勢の地で 育まれた狂言

世界

長久楽
棒縛り
文ふみにない荷
OPEN

古くから能楽の座があったことが知られる伊勢。

江戸後期、この地を訪れた一人の狂言役者は住民のために曲を書き残しました。伊勢の国馬瀬村（現伊勢市馬瀬町）に滞在したのは、和泉流の狂言役者、野村小三郎玉泉。以来、馬瀬では玉泉から習い親しんだ狂言の芸を、今も大切に演じ続けています。

今年度の日文公開講座では、この馬瀬狂言を伝承している馬瀬狂言保存会の方々をお招きし、玉泉の遺した「長久楽」をはじめ三番の演目を上演していただきます。また、別会場にて、馬瀬の家々で伝えられてきた台本や能楽関係資料（馬瀬狂言保存会蔵）を展示します。初公開となる貴重な資料の展覧と共に、地域で育まれた伝統芸能の世界をお楽しみください。

第12回昭和女子大学日文公開講座

令和6年

11月16日

土

14時00分 ↓ 15時40分

昭和女子大学グリーンホール（三軒茶屋）

実演：馬瀬狂言保存会

解説：山本晶子（昭和女子大学教授）

※開場：13時30分

オンライン配信もあります。



資料展

公開講座にあわせて資料展を行います。

会期：11月16日 ↓ 11月30日

開館時間：9時～17時

日曜日及び11/23(土)は休館

会場：昭和女子大学図書館

コミュニケーションルーム

※詳細は特設ページでご確認ください。



参加無料・要予約

申込：<https://www.swu.ac.jp/swuhp/university/nichibun/openlecture.html>
主催：昭和女子大学日本語日本文学科 (03-3411-5019)

馬瀬の狂言世界

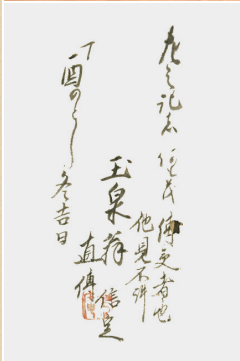
伊勢の地で育まれた狂言



② 瓜盗人



① 長久菜



④ しびり



⑤ 舟渡 ぶなわたしむこ

⑨ 二〇二一年、一〇年ぶりに馬瀬神社に舞台を作つての上演。この組み立てで舞台は、大正時代に作られたもので、老朽化と共に、設営と撤去に人手と時間がかかることから、現在では、馬瀬町公民館の舞台上で上演されている。(未広がり)

⑩ 馬瀬狂言保存会所蔵資料の中には、辻能の仙助能の番組が二種類ある。写真⑧は、嘉永四年、伊勢の中之地蔵の芝居小屋で行われた時のもの。写真⑩は、稀曲「空腹(そらばら)」が上演された天保二年八月の番組。

⑪ 小学生による「しびり」(二〇〇六) ⑫ 舟渡(二〇〇六) ⑬ 棒縛り(二〇一八) ⑭ 「文荷」(二〇一五) ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ (いせトア)

① 馬瀬狂言固有曲の「長久菜」は祭礼の始まりを言祝ぐ曲で、和泉流狂言師の野村小三郎玉泉によつて作られた。二〇一九年には、中学生の会員が舞をつとめた。(馬瀬町公民館)

② 「瓜盗人」(二〇〇六) (いせトア)

③ 馬瀬狂言の台本には、野村小三郎玉泉から狂言の芸を伝授されたことを示す記事が散見される。

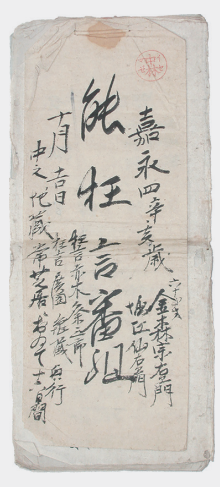


⑥ 棒縛り



⑦ 文荷

2	1
4	5
3	6
7	8
	9
	10



昭和女子大学大学院文学研究科修了。昭野は日本中世文学・人間文化学部長。専門分野は日本中世文学。なかでも、狂言を主たる研究テーマとし、地方に残存する資料研究、特に三重県伊勢市馬瀬町に伝承されている馬瀬狂言の調査・研究を二年以上続けている。

山本晶子プロフィール

江戸時代から続く狂言の維持のため、明治末年に玉泉会が発足し活動していたが、太平洋戦争で一時的に中断。一九五〇年に町の青年団が発起し、馬瀬狂言保存会が組織され、現在に至る。一九六三年に三重県無形文化財指定。

馬瀬狂言保存会 プロフィール

馬瀬狂言プロジェクト

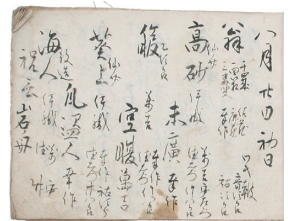
日本語日本文学科のコースプロジェクト科目として二〇二四年度からスタート。三重県伊勢市の馬瀬町の人々の手で長い間伝えられてきた馬瀬狂言を紹介・発信するプロジェクト。公演の企画・運営、リフレット作り等を通して、地域で伝承されている日本の伝統芸能について学んでいる。



お申し込み方法

- QRコードで特設ページへアクセス
<https://www.swu.ac.jp/sw/hp/university/nichibun/openlecture.html>
- フォームにメールアドレスを入力・送信

後日、参加方法を記したメールをお届けします。当日は会場またはメールに記載のURLにアクセスして視聴



【資料展会場について】資料展の会場は8号館3階・図書館「ミニシアター」です。ご入場方法を公開講座特設ページにてご確認ください。ご来場ください。



会場へのアクセス
昭野女子大学グリーンホール
東京都世田谷区太子堂1-7-57
東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車
南口A出口から地上へ
国道246号線を渋谷方面へ
(階段を上がる方向でそのまま直進)
正門まで約400m・徒歩約7分
「人見記念講堂」隣